

# アメリカオオアカイカ 東部太平洋

Jumbo Flying Squid, *Dosidicus gigas*



## 管理・関係機関

ペルー政府 (ペルー 200 海里内)  
 チリ政府 (チリ 200 海里内)  
 メキシコ政府 (メキシコ 200 海里内)

## 利用・用途

味噌漬・もろみ漬、塩辛、さきいか、くんせい、天ぷら・フライ、カップ麺用のフリーズドライ、イカリング

## 最近一年間の動き

FAO 漁獲統計によると、2011 年のアメリカオオアカイカ漁獲量は 90.6 万トンとなり、本種漁業が始まってから最も高い漁獲量となり、頭足類の中で最大の漁獲量を維持した。そのうち、ペルーとチリがそれぞれ 40.5 万トンと 16.4 万トンの漁獲を揚げた。さらに、特筆すべきことは、中国の漁獲量が 25 万トンに達したことである。本種は近年の世界的な需要の高まりから国際原料となり、主要沿岸国のペルーは、2011 年から本種の漁業管理規則と入漁許可に関して価格競争入札を導入することを決定した。しかし、現時点まで入札等に係る制度が確立せず、2012 年 1 月以降、日本漁船は当該水域での操業ができない状態となっている。このため、メキシコ海域やエクアドル海域での操業が模索されている。

## 漁業の特徴

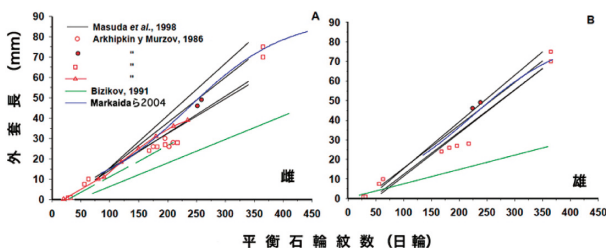
我が国は、1989 年頃からメキシコ 200 海里 (EEZ) 内で釣り操業を開始した。その後、ペルー EEZ 内で高密度群が発見され、1990 年から漁船 40 隻余りが出漁し、4～8 万トンを漁獲した。その後ペルー海域は 1996 年からペルー海域は不漁となったが、コスタリカ沖で新漁場が開拓された。2002 年以降、我が国は主としてペルー海域で操業してきた。主な漁業国は、ペルー、チリ、メキシコなどで、沿岸の零細漁民による日帰りの手釣り漁業が発展している。近年はペルー沖やチリ沖の公海において、中国船を主体とする外国いか釣り漁船による漁獲が急増している。

## 生物学的特性

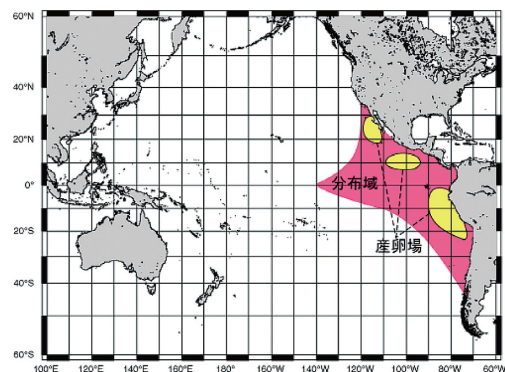
- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 4～5 か月 (中型)
- 産卵期・産卵場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 索餌期・索餌場：周年、カリフォルニア～チリ沖の湧昇域
- 食性：プランクトン、魚類、いか類 (共食い)
- 捕食者：キハダ、いるか類、マッコウクジラ等

## 漁業資源の動向

全世界のアメリカオオアカイカ漁獲量は 1990～1992 年にかけて、約 3～12 万トンに急増し、その後 1998 年を除き、2001 年まで 14～30 万トンを維持した。その後、2002・2003 年に約 40 万トンに増加し、2004 年以降、多少の変動はあるものの総漁獲量は約 80 万トン前後で高い漁獲量が維持されている。2011 年には 90 万トンに達し、本種資源を漁獲し始めてから最大の漁獲量を記録した。これは、いか・たこ類の単一種で世界一の漁獲量となっている。



アメリカオオアカイカの成長



アメリカオオアカイカの分布図

資源状態

ペルー海域では 1991～1995 年は好漁であったが、1996～1997 年にかけて CPUE が減少した。前者の漁期は、エル・ニーニョ傾向の温暖期で、後者の漁期はラ・ニーニャ傾向の寒冷期であった。このため、1996 年漁期の不漁の原因として、海況（ラ・ニーニャ現象）と乱獲の両方の可能性が考えられた。1997/1998 年には大規模エル・ニーニョが発生したものの好漁にはならず、引き続き不漁であった。2000 年以降は好漁に転じ、資源水準は高い値で推移している。日本漁船のペルー EEZ 内での操業による CPUE の変動を見ると、一時的に 2007～2008 年にかけて減少が見られたが、2000 年以降では月ごとの変動をしながらも比較的高い値で推移してきた。しかし、2010 年から日本漁船の CPUE の減少が観察された。この減少は、ペルー沿岸零細の釣り漁業の CPUE（トン/出漁回数/船）でも観察された。しかし、2011 年中頃から CPUE 水準は回復し、2012 年 1 月以降にさらに増加して資源は高位となった。

管理方策

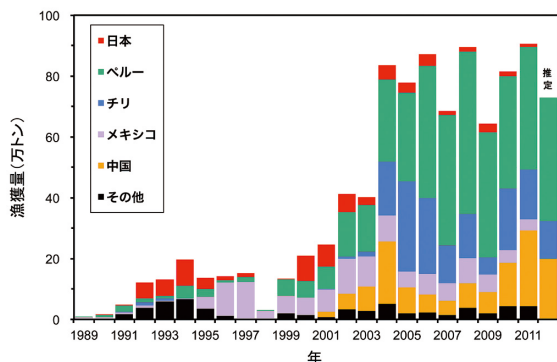
- ペルー EEZ 内（ペルー政府）：プロダクションモデルによって算定された MSY を基に漁獲割当を決定する。外国漁船の 80 海里までの入漁制限（2011 年）、外国漁船の入域停止状態で新たな入漁施策が検討されている（2013 年）。
- チリ EEZ 内（チリ政府）：チリ中央部の第 15 州から第 12 州までの海域において、大規模漁業と零細漁業とに分けて、漁獲割当（Quota）を決定している。
- メキシコ EEZ 内（メキシコ政府）：詳細不明

資源評価まとめ

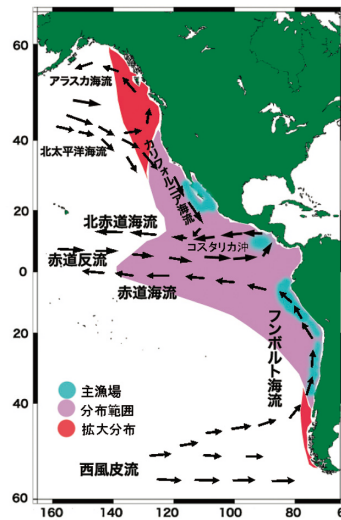
- ペルー政府はプロダクションモデルによって、自国の EEZ 内における 2001～2011 年にかけての平均現存量を 2.51～2.96 百万トン、MSY を 85.4 万トンと推定し、2012 年の漁獲割当を 50 万トンとした。
- 資源水準は高位、安定。

資源管理方策まとめ

- 2012 年のペルー EEZ 内における漁獲割当は 50 万トンであるが、外国漁船への入漁許可が出されていない。

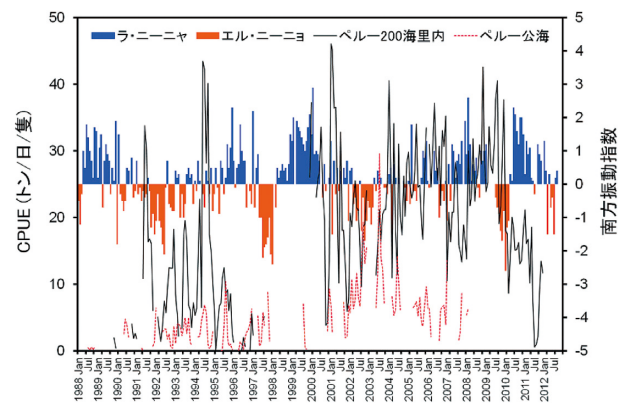


アメリカオオアカイカ国別漁獲量（データ：FAO 2013）



アメリカオオアカイカの分布と主な海流

■の範囲はかつて報告されていた本種の分布範囲、■は最近年に分布拡大したと思われる範囲、■は主漁場。



日本のいか釣り漁船によるペルー海域（200 海里内及び公海）におけるアメリカオオアカイカ CPUE（トン/日/隻）の月別変化及び南方振動指数の月別変動

アメリカオオアカイカ（東部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準 (ペルー海域) (チリ海域)	高 位
資源動向 (ペルー海域) (チリ海域)	安 定
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	64.3～90.6 万トン (全域) 平均:78.9 万トン (2007～2011 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.0～2.7 万トン (ペルー海域) 平均:1.7 万トン (2007～2011 年)